Ｃ型（短期集中予防）サービス
モデル事業　報告会

実施環境と面談の実際を中心に

2026年　9月25日

浜の宮松竹園デイサービス　理学療法士　吉原　健太

1. 今回のモデル事業について

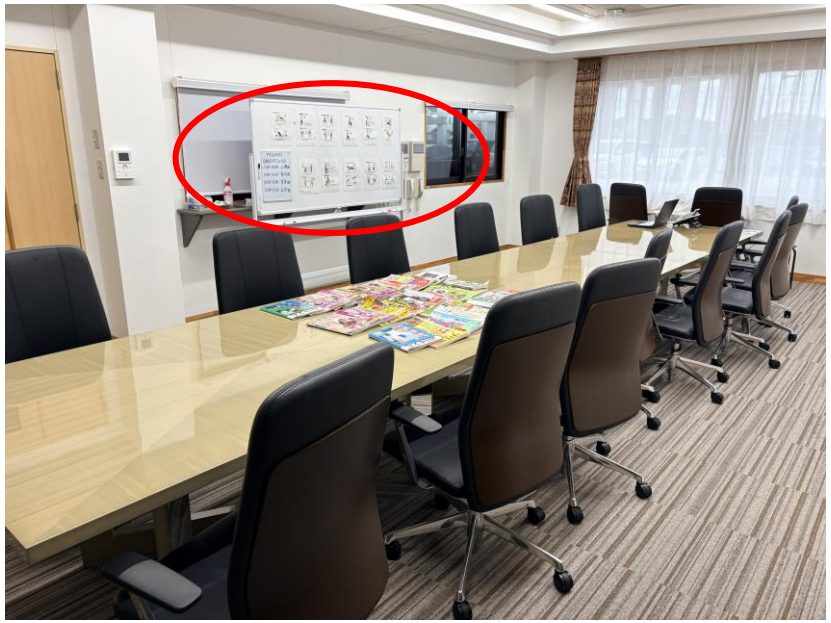
・サービス開催日時：毎週火曜・木曜日13：30～15：30

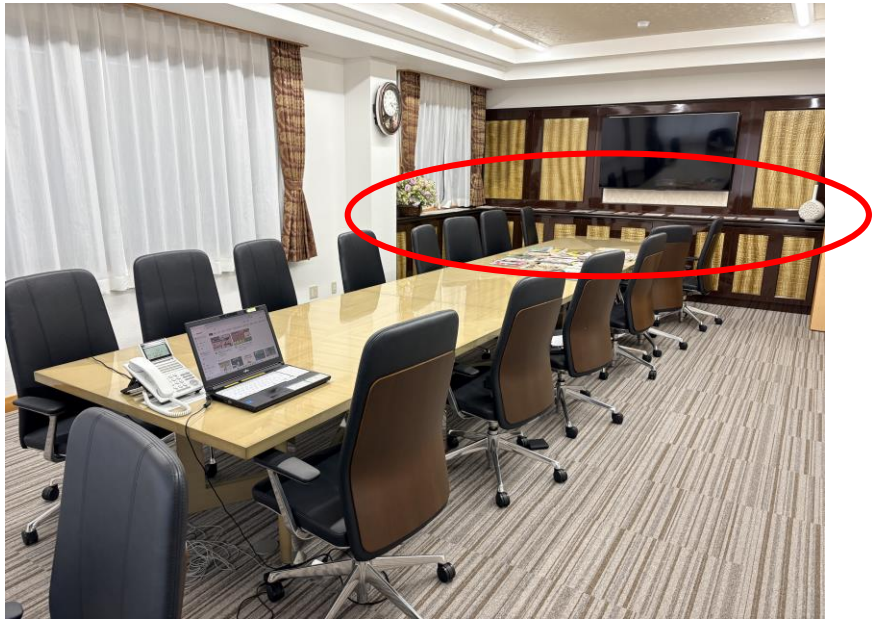
・参加人数：火曜日　男性3名　女性2名
　　木曜日　女性4名　　計9名

・人員配置：理学療法士1名　　事務員1名
※必要に応じて管理栄養士、生活支援コーディネーター、
　地域包括職員が同席

2.　実施環境①　面談･待機場所



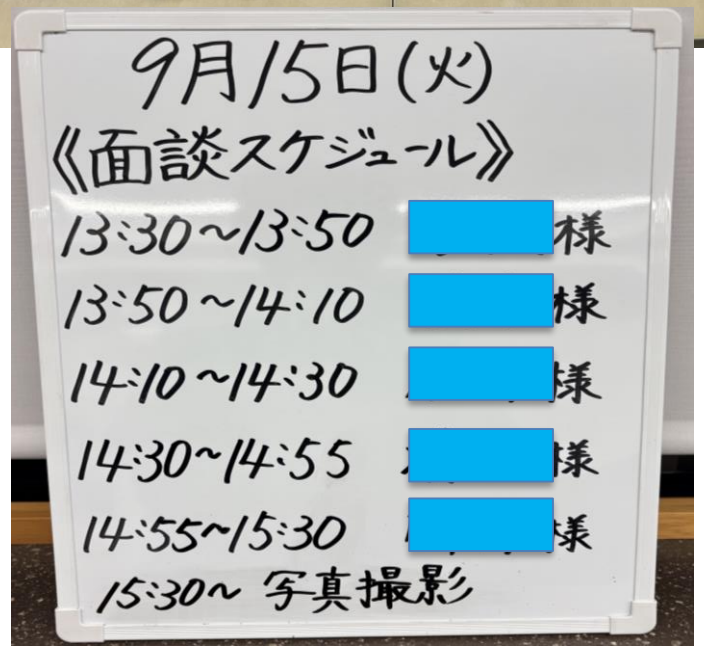




実施環境②　待機場所の周辺環境









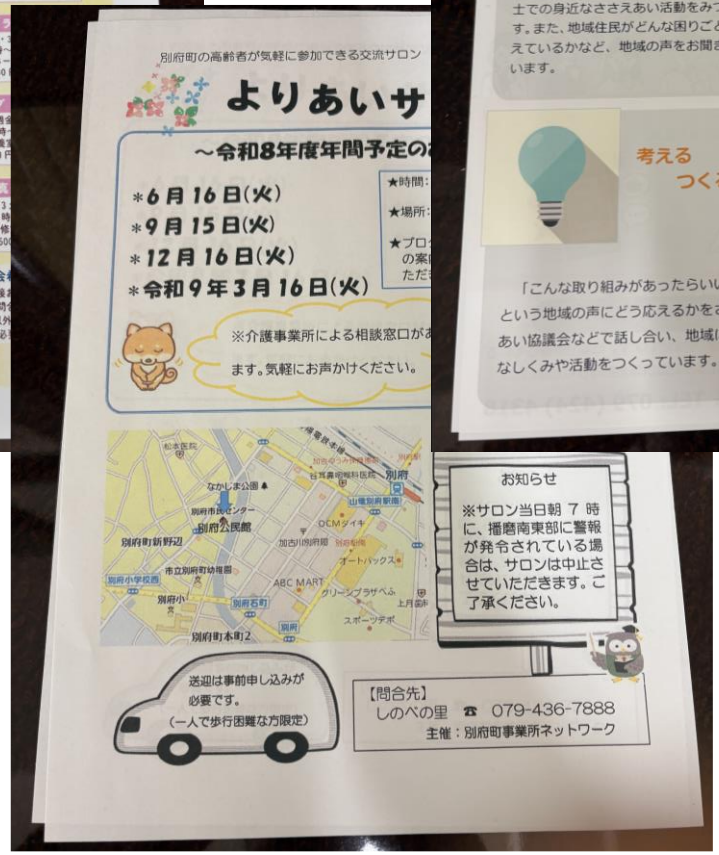


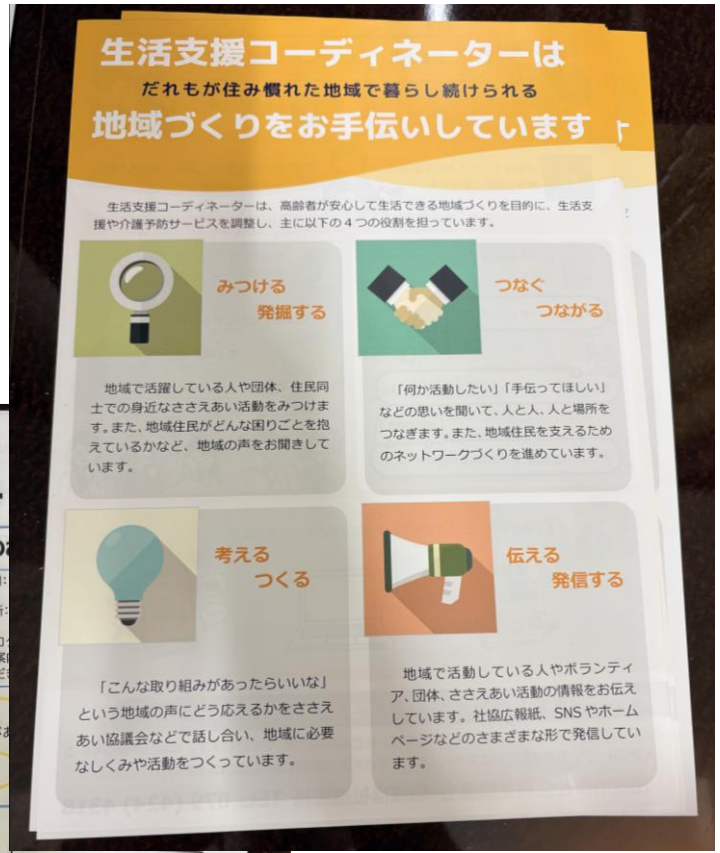
実施環境③　社会資源に関する資料











実施環境④　運動に関する資料











3. 面談の様子　面談中の環境・姿勢





4. 面談での具体的な内容

〇「最近できた事・嬉しかった事」の共有：小さな成功体験を言葉にして振り返り、本人の自信やモチベーションの維持に繋げる関わり

〇「日々の生活の中での困りごと」の深堀り：「病院の階段の昇り降りがつらい」「日課である園芸の姿勢がつらい」など、具体的な生活上のハードルを具体化する

〇「卒業後・その人の暮らしのイメージ」：プログラム終了後にどんな生活を送りたいか、地域の通いの場や友人との交流の継続について話しあう

5. 面談の場面を写真で紹介









6. 実施して分かったこと・今後の課題

環境面の良かった事

面談席と待機場所を同じ空間にした事で、他の利用者の様子が把握できた

環境面の課題

プライバシーの問題。同じ空間だからこそ、パーソナルな話が他者にも聞こえていた可能性がある

面談で良かった事

スケジューリングした事で、セラピスト・利用者ともに限られた時間で必要な話をするという意識ができ、面談がスムーズになった

面談上の課題

面談中心の事業である為、1人に対して2時間の限られた時間では3人ぐらいが、より深い面談が行えると感じた

今後も続けたい工夫

・待ち時間の過ごし方

（PCやスマホの操作方法の指導）

今後改善したい事

・参加利用者の数に応じた面談者の配置

・実施場所であったり、配席などの環境と待ち時間の過ごし方の工夫

まとめ

安心できる環境と対話の価値

あたたかい雰囲気の場所と、受容的な面談・対話があるからこそ、利用者の閉ざされていた主体性や「やってみよう」という意欲が引き出される

今回のモデル事業で得た、環境面・面談面の工夫を今後の実施方法の改善に繋げる

ご清聴ありがとうございました